

ທຸກໆທ່ານ(皆様) ມະຫາວິທະຍາໄລ(大学) ກະນະກະວະ(神奈川県)
神奈川県大学の皆様へ

ຂໍຂອບໃຈຫຼາຍໆທີ່ເອົາ ປຶ້ມຮູບພາບ ໃຫ້ 素敵な紙芝居をありがとうございました

お礼とご報告

この度はサワンナケート大学言語学部に、紙芝居をご寄贈いただきましてまことにありがとうございます。

私は2015年1月より青年海外協力隊としてラオスに派遣されております■■■■と申します。ラオスのサワンナケート県にありますサワンナケート大学言語学部で日本語教育をおこなっております。

9月上旬に日本から海を越えて東南アジアの内陸国ラオスまで紙芝居が届きました。寄贈式に同席した学生たちは写真やテレビでしか見たことがなかった紙芝居に興味津々の様子でした。

お礼とともにラオスについて、また寄贈先のサワンナケート大学、大学で日本語を学ぶ学習者の様子をご紹介しますと思います。

“ラオス人民民主共和国”のご紹介

「ラオス」という国をご存知でしょうか。

名前も初めて聞く方が多いかと思いますが、ラオスは周りをタイ、ベトナム、カンボジア、中国に囲まれた東南アジアにある国です。地理上また歴史上、タイの文化が多く入っており商店で売っている商品のほとんどがタイ製です。またテレビも多くがタイの番組でテレビを見て育った若い人たちはタイ語も理解しています。ベトナムからは食文化が入ってきており、「フォー」や「フランスパンのサンドイッチ」などはラオス人の大好きな大衆食です。

地図をご覧いただいてもお分かりになるとおり、ラオスには海がありません。ですが、タイとの国境沿いに「メコン川」という川が流れています。川の名前は「母なる川」という意味で、名前のおりとても広くまるで海のような様子です。私がお



すすめるラオスで一番の過ごし方は夕方、メコン川沿いのレストランで沈む夕日を見ながら食事をする事です。タイ側からは見られない絶景が味わえます。

またラオスの国の花は「チャンパー」という名前です。タイトルのところの背景にある白と黄色の花がそれです。お祭りごとの時には女性が髪飾りとしてつけたり、花輪を作ったりします。ラオスの人たちはこの花が大好きです。

そんなラオスの人たちはどんな生活をしているのでしょうか。私が1年9か月見てきたラオスの人たちの日々の生活を少しご紹介します。



一年のほとんどが夏のラオスでは、朝の涼しい時間から人々の生活は始まります。7時ごろから子供たちは学校に登校し、見送った大人たちは8時ごろ出勤します。私も同じ時間に通勤していますが、通勤路になっている大通りはたくさんのバイクと車でごった返しています。途中で朝ごはんのフランスパンサンドイッチを買うサラリーマン、道を挟んで物の貸し借りをする食堂のおばちゃん、道路を横切る犬にヤギにとこの時間は大賑わいです。

お昼休みは早く11時半頃から始まります。1時間半ありますので自宅に戻る人も少なくありません。学校では給食がないので子供たちは皆一旦家に帰って、家族みんなで昼ごはんを食べ学校に戻ります。昼も朝のようなまさにラッシュが起こってしましますが、人々は本当にのんびりしています。クラクションを鳴らす人はほとんどいません。そして1時頃からまたのんびりと午後の仕事や勉強が始まります。



帰宅時間も早く、4時半から帰宅ラッシュが始まります。大人も子供も同じ時間に帰り、晩ごはんの時間までは外でのんびり涼んだり、国民的スポーツのバドミントンや今人気のエアロビクスなどをしたりして過ごします。夕飯はもちろん家族みんなで食べ、食べ終わってから寝る時間まではテレビを見たり、外で涼んだりのんびり過ごしています。

日本に比べて娯楽が少なく、週末買い物をするようなスーパー・デパートはありません。でも家族・友達と過ごす時間を大切にするラオスでは、そういったものはあまり必要ないのかなと感じています。

【ラオス基礎情報】

| | | | |
|----|-----------------------------------|----|--------------------|
| 面積 | 24万km ² (日本の本州より少し大きい) | 言語 | ラオス語 |
| 人口 | 約649万人(千葉県より少し多い) | 季節 | 雨季(6~10月)乾季(11~5月) |
| 民族 | ラオ族を含む計49民族 | 宗教 | 仏教 |



“サワンナケート県”のご紹介

続いて私が住む町「サワンナケート県」について簡単にご紹介します。首都ビエンチャンから南に540kmのところにあります。飛行機で1時間半、長距離バスで約8時間ほどかかります。面積はだいたい秋田県の2倍 21,700 km²とラオスで一番広い県です。人口ももっとも多く、首都に次ぐ第二の街と言われています。

サワンナケート県はタイとベトナムを結ぶ「東西経済回廊」と中国からカンボジアに向かって走る「南北線」が交差する交通の要所でもあり、その利便性を生かしラオスで初の経済特区が作られました。今では日系企業をはじめとする外資系企業が多く進出しラオスで最も大きな経済特区になっています。



またサワンナケート県は昔フランスに統治されていた時代があり、今も旧市街にはその時代の面影を残す建物が見られます。フランス統治の影響で街の中心は碁盤の目のように道路が走り、街歩きには迷路のような楽しさがあります。また陸路で東南アジアを旅する旅行者にとっては中継地点ともなる街で、欧米系の外国人がバックパックを背負って街中を歩いている姿もよく見られます。



恐竜の化石が数多く発掘されている県の一つでもあります。郊外には恐竜の足跡が見られる川岸もあり、ちょっとした観光スポットになっていますし、街の中には恐竜博物館もあります。この博物館は日本の福井県の恐竜博物館とも交流があるそうで、博物館に行くと日本語や英語で丁寧に説明をしてくれます。

サワンナケートは首都ビエンチャンよりも車も人口密度も少なく、ゆったりと穏やかな時間の流れを感じられます。

“サワンナケート大学”のご紹介

次に贈呈先の「サワンナケート大学」についてご紹介いたします。2009年に設立された新しい大学で、農業、食品化学、経済、教育、言語の5つの学部からなります。学生数は約3600人で、私が所属している言語学部では約400人の学生が勉強しています。

日本語を勉強しているのはその中でフランス語学科と英語学科の2年生と3年生です。第二外国語として週に一度、主に生活で使う会話やひらがな・数字などを勉強しています。



また学部での授業以外に夕方、大学の職員や高校生・中学生、日系企業の会社員の方々も一緒に机を並べる「日本語教室」があります。日本留学を目指す人や日系企業での就職を目指す人、日本人の上司と日本語で話したい人など、様々な目的を持った受講生が集まっています。学部の授業とはレベルや内容が異なり、日本語の文法や日本の文化などにもより多く触れられるような内容になっています。

いずれのクラスも普段の授業の間に日本の文化を紹介する時間を時々入れるようにしています。そんな時、海の向こう(テレビの向こう?)の“不思議な国日本”に学習者は皆興味津々です。



「どうして日本の道路はあんなにきれいなんですか?」「どうして日本人は信号をちゃんと守るんですか?」「大学生は制服を着ますか?」など彼らからの質問はとどまることを知りません。

またサワンナケート県で紹介の中で触れましたが、サワンナケート県にはラオスで最も大きな経済特区があり日本の企業も多く進出しています。そのためサワンナケート大学でも今後日本語ができる人材育成に力を入れるべく、言語学部内に「日本語学科」を設立する準備をしています。今はまだラオス人の日本語教師も少なく、学科設立への道は平坦ではありませんが大学と協力しながら準備を進めています。

将来日本語学科ができた際には日本へ留学する学生も出てくるかもしれません。いつかサワンナケート大学で日本語を学ぶ学生が、日本のどこかで皆様にお会いすることができたらうれしいですね。

将来の日本語学科のため、また現在日本や日本語が大好きで学んでいる学生たちに、少しでも日本の文化にじかに触れてほしいという私の思いから、このプログラムへの応募を決めました。



贈呈式の様子

贈呈式には言語学部長と夕方のクラスで勉強する学生が同席しました。



「紙芝居」というものはラオスにはありません。そもそも読み聞かせをするという習慣がないので、「みんなで大きい絵本を読む」と私が説明しても、同僚の教師も「？」という顔をしていました。実際に届いた「紙芝居」をまずは同僚の教師に見せてみました。そのからくりと言いますか「1枚目の絵の裏には2枚目の文章が書いてあってこうして読むんだよ」という仕組みにとっても感心していました。

ラオス語訳と並行して読み聞かせてみたり、絵や読んでいる教師の抑揚や口調から場面を想像してみたり、いろいろな読み方をして楽しんでもらいたいと思っています。素敵な紙芝居をありがとうございました。





ສາທາລະນະລັດ ປະຊາທິປະໄຕ ປະຊາຊົນລາວ

ສັນຕິພາບ ເອກະລາດ ປະຊາທິປະໄຕ ເອກະພາບ ວັດທະນະຖາວອນ



ກະຊວງສຶກສາທິການ ແລະ ກິລາ
ມະຫາວິທະຍາໄລສະຫວັນນະເຂດ

ໜັງສືຂອບໃຈ

ຂ້າພະເຈົ້າ ອາຈານຄ່ອຍ ພູບູວົງ ໃນນາມ ຄະນະບໍດີ ພາສາສາດ ແລະ ມະນຸດສາດ ກໍ່ຄື ໃນນາມ ຄະນະຜັກ ຄະນະປົກຄອງ ມະຫາໄລ ສະຫວັນນະເຂດ.

ຂໍສະແດງ ຄວາມຂອບອົບຂອບໃຈ ມາຍັງອາຈານ ຢູກິ ພູຍິ ອາສາສະໝັກອົງການໃຈກ້າປະຈຳ ມະຫາໄລ ສະຫວັນນະເຂດ ອັນໝູ່ມ້ອຍ ທີ່ໄດ້ປະສານງານກັບອົງການຍີ່ປຸ່ນ ເພື່ອຂໍ ອຸປະຖຳ ອຸປະກອນຕ່າງໆ

ເຊັ່ນ: ເຄື່ອງຫຼິ້ນ, ບັດເກມພາສາຍີ່ປຸ່ນ ເຄື່ອງຫຼິ້ນໂຍນລຸກໝາກບານ, ໝາກຄ່າງ, ໄພ້ເກມຍີ່ປຸ່ນ, ປຶ້ມ ຮູບ, ອຸປະກອນການສອນພາສາຍີ່ປຸ່ນ ແລະ ຊຸດຢູກາຕະ ສຳລັບຜູ້ໃຫຍ່

ອີກເທື່ອໜຶ່ງ ກໍ່ຂໍສະແດງຄວາມຂອບອົບຂອບໃຈ ມາຍັງ ພະນັກງານພາສາຍີ່ປຸ່ນ ກໍ່ຄືລົດທະ ບານຍີ່ປຸ່ນ ທີ່ໄດ້ອຸທິດອຸປະກອນໃຫ້ ມະຫາໄລ ສະຫວັນນະເຂດ.

ທາງຄະນະພາສາສາດແລະມະນຸດສາດ ຈະພະຍາຍາມນຳໃຊ້ອຸປະກອນດັ່ງກ່າວ ເຂົ້າໃນການ ສິດສອນ ຮຳຮຽນພາສາຍີ່ປຸ່ນ ຢ່າງມີປະສິດທິຜົນສູງ ແລະຂໍຂອບໃຈມາຍັງ ພະນັກງານ ຂອງ ອົງການຍີ່ປຸ່ນ ທີ່ໄດ້ອຸທິດອຸປະກອນດັ່ງກ່າວ

《日本語訳》

感謝状

私はサワンナケート大学言語学部と人文科学部の学部長であり、またサワンナケート大学を運営するラオス国会議員である、[redacted] と申します。

この度は JICA ボランティアの [redacted] さんを通して、サワンナケート大学に教材を提供することにご協力いただきまして誠にありがとうございました。

ご提供いただいた教材はより大きな学習の成果が出せるように、大学の授業内で使用させていただきます。

改めましてこの度はどうもありがとうございました。深く感謝申し上げます。

[redacted]

サワンナケート大学言語学部長